

2025（令和7）年度 地域連携推進会議議事録

日 時：令和8年1月27日（火）13：30～

場 所：クロップハウスⅠ

出席者：グループホーム入居者 家族代表者 推進委員4名 グループホーム管理者
グループホームサービス管理責任者 グループホーム職員

1. 開会のあいさつ（グループホーム管理者）

2. 出席者自己紹介

3. 会議の趣旨・目的

資料をもとに地域連携推進会議の趣旨、4つの目的①利用者と地域との関係づくり、②地域の人への施設等や利用者に関する理解の促進、③施設等やサービスの透明性・質の確保、④利用者の権利擁護について説明をする。

4. グループホームについて報告（グループホームサービス管理責任者）

依存症という病気、障害について説明をしたのち、グループホームの状況について報告をする。マックだより配布。

①グループホームの概要：施設数と定員数

今年度3か所開設できたが、引き続き物件を探している

②支援者の体制：管理者、サービス管理責任者、世話人、生活支援員

③2026年1月26日現在の利用者数と2025年4月～12月末までの統計報告：

・年代別人数、新規利用者、退所者、途中入院者、ハウス移動者、体験利用者

④利用者の日中の場：北九州マックネクスト（生活訓練（自立訓練）事業所）

北九州マック（地域活動支援センター）

就労継続支援B型、一般就労、アルバイト

夕方からは各自助グループに参加

⑤地域活動：地域清掃、公園管理、祭りや運動会、防災訓練への参加

⑥経営状況：

⑦その他報告：ハウスで何かあれば、スタッフがすぐに対応する。

クロップハウスⅠの植木の枝が道路側にせり出したことで迷惑をかけたため、すぐに枝を切り対処した。

5. 質疑応答・感想

・月に2回の市政だよりが回ってきているか → 来ていることを回答

・クロップハウスの場所について → ハウスがある場所を回答

物件を探す際、利用者が依存症であることでの借りにくさを説明。併せて、依存症でどのような症状があるのかも説明する。

- ・ハウスを利用することでの良いところについて
 - 一人では回復することが難しい、孤立してしまう。仲間とマックのルールで生活をして、やらないように生活ができる。いろんなところから来て、依存の対象も違い、考え方も違う。水出しっぱなし、エアコンつけっぱなし、ご飯作れる、作れないいろいろあるが、そんなに揉め事はない。殴り合うとかない。共同生活をし、協力し合って、分担して、飲まない、かけ事をしない等、お互いに気をつけられる。気を遣う仲間がいて、自分のアディクションを止められている。自助グループに本当は行きたくないという思いにもなるが、これまで365日お酒を飲んでいたところを365日自助グループに通う生活をしている。
- ・回復の自覚について
 - 飲まなくなった。生きづらさで飲んでいて、止め続けることが大事。ゆくゆくは社会に出る。何が原因かを自分でつき止める。当たり前の生活が送れなかったが、送れるようになってきた。はっきりと断る意思の強さが大事。
- ・ハウスがいつの間にか増えている印象
 - 依存症は単体では回復しない。回復への取り組みが増えている。
 - 北九州マックでは地域活動支援センターから始まり、生活訓練事業所や相談支援事業所が立ち上がった。ミーティングが中心だが、スポーツ、料理、農業のプログラム等のプログラムがある。また、精神保健福祉センターでのミーティングなどにも参加している。
- ・利用している人は2～3年でかわっている印象。若い。関西弁の人もいた。地元では難しいのかと思った。地域の行事に参加し、よく働いて感心している。中には口は達者で、動かない人もいるが。

6. 閉会のあいさつ

7. 施設見学（クロップハウスⅠ・Ⅳ・Ⅴ）後、解散

8. 今後の課題

- ・地域で行われている月1回（第3金曜日）の資源ごみ出しに協力をする。
 - *回収場所の確認が必要。
- ・ハウス利用者の統計資料の内容（入所期間、退所先等）を充実させる。